

# 磐城時報

編輯兼發行人 田 田 成  
印刷所 磐城時報社  
發行所 磐城時報社  
電話 一四七五  
廣告料 一行十四字 日金五拾錢  
日刊 日曜 祭日 休刊

## 小名濱五六萬圓程度 工事を繼續

### 廿七日の閣議で正式に決る 黒澤氏歸町して語る

廿二日小名濱港築港復活を明治抄を妨げられていたので委員を  
神宮へ祈願した。上京關係筋擧げて折衝を試みつゝあつた結  
に陳情せる町民代表百五名は同果殆んど軟化し昨今では平六丁に  
日午後十一時三十分泉驛着て 目黒藤繁吉氏一人となつたが同考へてをらぬ様子でなく町  
歸町したが、一行に加はつた同 氏が最も地主の最大難物で敷度會の態度決定後着工するが穩當  
町役場庶務主任黒澤島雄氏は二 委員が手を換へ品をかへて交の措置といふ向もあるが該土地  
十三日左の如く語つた。

## 製氷會社直營となつて 氷大々の値下げ

### 七月二十六日から斷行

平製氷株式會社では御賣人の希になつたため一般では非常に喜  
望により既報の如く八月一日かんでゐる。  
製氷會社を全廢し會社直營に水  
小賣を行ふ豫定であつたが、更  
に最近に於て御賣人から一日も  
早く會社直營にして貰ひ度いと  
いふ希望があつたので八月一日  
を七月二十六日に繰上げて之を  
實行する事になつた。會社直營  
の水配運賃は  
現金 一貫八錢  
回数券 一貫七錢

## 齋藤氏頑強

平町第三小學校敷地問題は屢報  
の如く一二地主の不承諾から進

## 石城の梨に 黒星病發生

内郷の各村など梨の産地に昨今  
の天候關係で梨の葉に黒星病が  
發生し益々蔓延の微あり場所  
よつては殆んど全滅に近きもの  
勢からす栽培者は大恐慌を來し  
ポルドー液などを撒布極力豫防  
撲滅に努めてゐる一方郡農會で  
もそれ〴〵技術員を派し善後策  
を講じてゐるが手おくれの氣味  
を講じてゐるが手おくれの氣味  
を講じてゐるが手おくれの氣味  
を講じてゐるが手おくれの氣味

## 絶好の日和に恵まれた 中等野球決勝戦

### 大接戦を豫想さる

本社創立十五週年紀念中等學校  
野球大會磐城中等學校安積中等  
決勝戦は廿四日午後二時  
から磐城中等學校グラウンドで舉行  
したが、この日朝來快晴に恵ま  
れ絶好の野球日和として午前中  
から既に歓聲は續々とグラウンド  
に押しかけ開會前既に數千名を  
數へた。午後一時半大會副會長  
阿部政右衛門氏の挨拶によつて  
加藤(球)清水(壘)兩氏審判の下  
に試合が開始されたが、兩軍の  
メンバー左の如く、練習振りか  
ら見て兩軍の勢力互に伯仲し大  
接戦を演ずるものと思はれる。

## 辭世の歌を殘して よるべなき老爺縊死

石城郡植田町岩間墓地で死後數不明のもので弟瀧次夫妻にあて  
日を経た縊死体を發見右は安達た(我死んでこの身は野山に洒  
郡下川崎村字下川崎生れ當時茨すとも身は元の清川の水)と辭  
世をものした遺書一通あつた。

## 石城郡下の ずる虫被害

石城郡飯野村、高久村兩村を中  
心として附近數ヶ村の水田一帯  
に亘りずる蟲發生殆んど全滅の  
個所もあり被害甚大なので農民  
は大狼狽をなしこれが應急對策  
を考案中。

## 勿來臨海學校

高等小學校及尋常小學校の兩校  
では二十三日より三日間勿來海  
岸櫻雲莊附近の海岸に臨海學校  
を開設した。

## 警察部長來平

新任警察部長は二十三日午後來  
平住吉屋本店に一泊し二十四日  
午前警察署に至り署員に訓示  
をなした後警察署新廳舎を檢  
分して歸福した。

## 兒童遊技研究

石城  
郡兒童遊技研究會では來る八月  
十六日から三日間平町第一小學  
校講堂において夏期講習會を開  
來り各演いづれも賑つてゐる。

## 平職紹成績

平町職業  
紹介所七月中旬における取扱成  
績は求人男十二名、女二名、計  
十四名、就職は内約六割である  
つを一千五百尾乃至三千五百尾  
を漁獲廿三日未明歸港したが陸  
揚げ相場は十掛で取引、かつを  
の漁獲はいよゝ、本縣の沿岸四

## かつをの大漁

三雙江名入港  
あつて、徳利がころがつてゐ  
る、話し掛けても老女などは  
返答しない、男なら答へる、  
女は口を開かぬのださうだ、  
若い女なら答へるさうだが老  
女は言葉がうまく出ない、彼  
等の言語は一切聞きなないんだ  
さうだ、次に彼等の頭腦の事  
が、決して悪くはない、和  
人と一緒に小學校へ行つても  
ゐる、通信簿など見せてもら  
うと可成り良い、唯頭の頭が  
少し悪い様だ、併し自分より  
は誰に良い、メノコ(女)は柔  
和しい、男は猛しい、毎年の  
熊狩には十頭位づゝの熊の子  
を捕へて來るさうだ。

## 北海道・樺太方面 徒歩旅行の途上から

(第十一信) 北海道にて 松 田 正 一  
やがて此處の牧師の所へ休ま  
せてもらふ事にして腰に腰を  
下ろしてゐる内眠つてしまつ  
た、そして醒めた時には強い  
雨降りになつてゐたので何處  
へも行けなくなつてしまつた  
仕方がないから此處で飯を炊  
いて朝食を済まして後、アイ  
ヌ部落へ見學に行く事にして  
雨の中を歩いてゐると、とて  
も凄しい、一見侵入し難い所  
ある女性があつて來る、呆れ

投手	安中	捕手	磐中
一壘	石田	二壘	大平
三壘	萩原	遊撃	高橋
左翼	吉村	中堅	吉田
右翼	佐藤	中外	藤田

## 平職紹成績

平町職業  
紹介所七月中旬における取扱成  
績は求人男十二名、女二名、計  
十四名、就職は内約六割である  
つを一千五百尾乃至三千五百尾  
を漁獲廿三日未明歸港したが陸  
揚げ相場は十掛で取引、かつを  
の漁獲はいよゝ、本縣の沿岸四

## 平職紹成績

平町職業  
紹介所七月中旬における取扱成  
績は求人男十二名、女二名、計  
十四名、就職は内約六割である  
つを一千五百尾乃至三千五百尾  
を漁獲廿三日未明歸港したが陸  
揚げ相場は十掛で取引、かつを  
の漁獲はいよゝ、本縣の沿岸四

▲片寄遂に服罪 藝妓に謝礼金四萬五千圓を横領費消した休業中の磐城銀行四倉出張所主任石城郡大浦村片寄清義(二八)の業務上横領事件はさきに福島地方裁判所の控訴公判で検事の懲役一年六ヶ月の求刑に對し同年二月を言渡され上告中のところ今回上告棄却となり控訴審言渡通り服罪することになった。

平町紺屋町  
吉田眼科  
電話六八番

原町通信  
▲原警察署夏稽古 原警察署にては毎年夏期に於いて署員の警備會を開催しつゝありしが本年も去る廿日より來月四日まで土用中二週間に涉り剣道指南をなす由なるが一般剣士の出席を希望する方針なり。

▲コソ泥か本物が 去る廿一日夜午前一時頃原町太之助町八百屋長谷川吉次郎方へ何者か侵入し店頭にありし手提金庫を持ち去りしを程經て見附けたるも幸ひ金庫には多額の金員無かりし。

▲鹿島町長改選 鹿島町にては町長改選につき廿二日町會を開催せるが決定に到らずして會散せるが前町長再選派と星寅五郎氏擁立派との争奪戦なり。

▲小學校休暇 相馬郡各小學校は來る八月一日より卅一日まで一般休校する由。

純天然氷賣出し  
いよ／＼純天然氷が参りました。ほんご原價同様にて皆さんに御願致しますから何卒御用命を願います。  
開店披露の爲廿四日より三日間限り  
特賣(二貫匁迄一貫目に付十錢  
値段(三貫匁以上同 八錢  
普通(二貫匁迄一貫匁に付き十二錢  
値段(三貫匁以上同 十錢  
御注文は電話六三三番へ配達迅速  
平二丁目横

出張所開業廣告  
今回福島縣石城郡小名濱町字上町十六番地に小名濱出張所を開設二十四日より一般銀行事務取扱を開始可致候に付爲念廣告仕候  
昭和四年七月  
株式會社七十七銀行  
頭取 伊澤平左衛門

ナツフク

小學生	一年生 八十錢	中學生	一年生 貳圓四十錢
	二年生 九十錢		二年生 貳圓五十錢
	三年生 一圓		三年生 貳圓六十五錢
	四年生 一圓十錢		四年生 貳圓七十五錢
	五年生 一圓二十錢		五年生 貳圓八十五錢

平町四丁目停車場通

# 正札堂

代議士木村清治氏  
渡歐歡送會開催  
一日時 七月二十六日午後二時  
一、會場 平町谷口樓  
一、會費 金 參圓  
奮つて御參加を願ひます  
發起者 山崎與三郎 高岡唯一郎 諸橋久太郎 安島重三郎

滋養、強壯劑として愈々好評  
偉大なる藥酒「栗守酒」  
朝の一盃は精力の根原、晩の一盃は休養の助力  
栗守酒特約店 大平屋藥店  
代價八日分壹圓九十錢 平町一丁目(電話六二二)

理化學研究所製  
吸入用酸素酸素吸入器  
正確体温器寒暖計  
特約店 磐城平町 開内藥局 電話四〇番

外科 專門  
花柳病科  
平町六丁目橋際  
木村外科醫院  
電話三〇九番

煙突は 朝日  
石綿セメント製  
朝日煙突  
絕對に はぜない!!  
経済的で くさらない!!  
火災の心配がない  
突煙は強く強  
程は晒に露雨  
特約店 釜屋商店 電話九三九

耳鼻咽喉科 專門  
氣管食道科 專門  
病室完備...自炊の便あり  
平町南町 大和田醫院  
電話一七〇番

故妻ツル儀葬送の際に御多忙中遠路の處態々御會葬被下且御鄭重なる御香奠御贈與を蒙り難有奉深謝候一々拜趨御禮可申上處乍畧儀以書中御厚禮申上候 敬具  
昭和四年七月廿四日  
太田三郎 佐藤作平